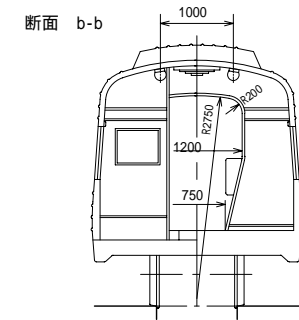
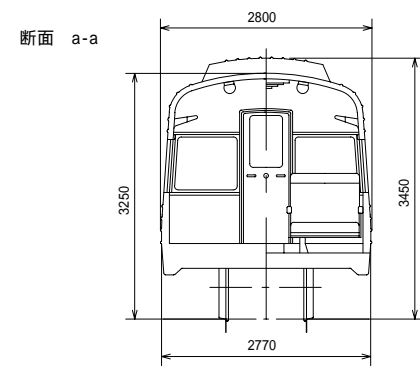
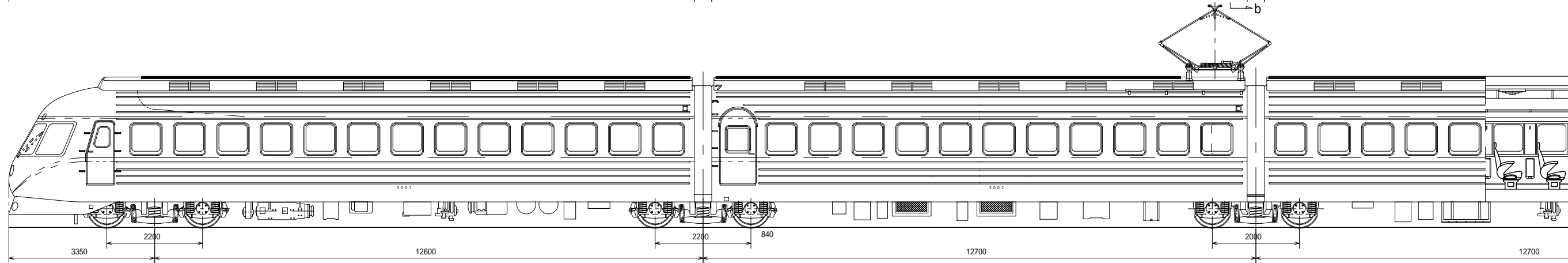
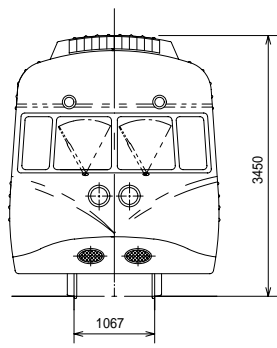
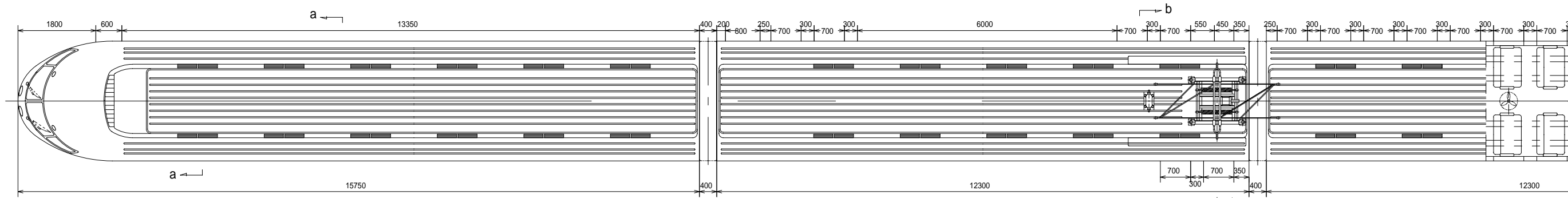
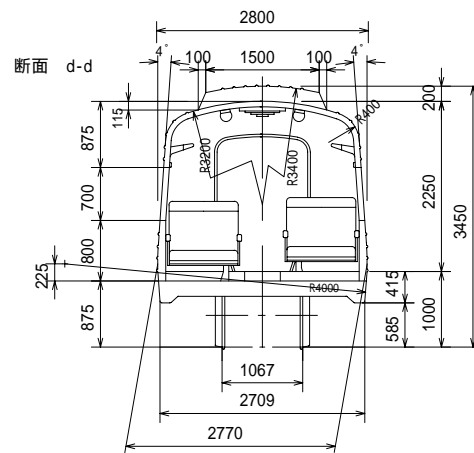
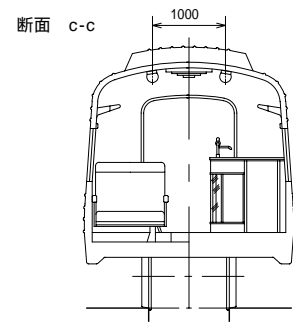
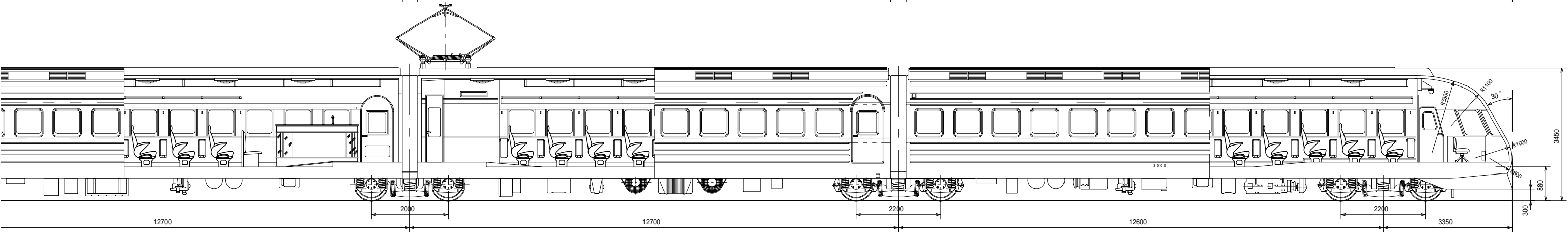
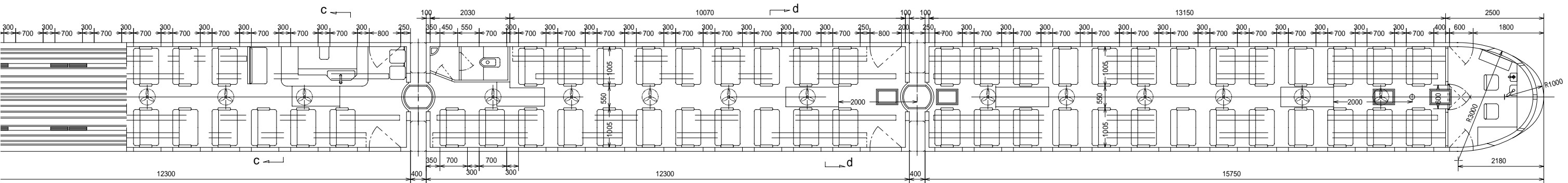


### 小田急電鉄 3000系 形式図





1957年に日車と川車で誕生した特急用で、日本の特急電車に処女地を開拓した記念すべき車輛  
 「SE車」と呼ばれ、これはSuper Expressを略したもの  
 軽量、高速、快適を狙い、車体に低床式・張殻構造を採用、前頭部の流線型、サイドから屋根にかけてのリブなど、従来の日本の電車にはなかったデザインが数多く盛り込まれている  
 屋根前部に収めたスピーカーによる警報装置も、この車輛が最初に実用化した方式  
 8車体9台車の連接式で、内6台車が動力台車KD17、他がKD18  
 塗装は窓下と前頭部窓上が朱、窓回りから屋根にかけてがグレイ、それに窓の上下に白のラインを配し、上屋根が黒灰色  
 図は製造当初の姿で、5車体に短縮して示す  
 輛数は増備を含めて4編成32車体  
 1962年には冷房装置を取付け  
 なお、このSE車は新造間もない1957年9月に国鉄東海道線に入線して高速試験を行い、最高145km/hをマーク  
 こだま型登場の前年のこと  
 1963年にはこのグループの発展型のNSE車3100型が就役